

特定医療法人 原土井病院
副理事長・リハビリテーション部長

原 祐一氏に聞く

福岡市東区の閑静な住宅街に立地する原土井病院は、40年以上にわたり、地域に根差した医療を実践している。診療の特徴としては、まず約70名のスタッフと2病棟104床を有して「川平法」やロボットスーツ「HAL」、パワープレートなどによる最新の治療・訓練法を導入、年間約400名の患者を診療しているリハビリテーション医療が挙げられる。また、緩和ケアの分野でも、01年4月に緩和ケア病棟を、次いで緩和ケア外来を開設し、看取りだけではない、痛みを和らげることで治療継続をサポートする体制を整えており、現在は「地域包括ケア」に取り組んでいるという。

同院では、チーム医療を実践するために診療情報の共有が重要と考え、医療ITの活用を重視。2002年のオーダリングシステム導入を皮切りに、04年には地元IT企業との共同開発によるマルチベンダ型の病院情報システムを構築し、爾来、約10年間にわたって同システムを運用してきた。そして14年2月、同院では、日進月歩の医療の進歩に対応すべく、大手ITベンダの電子カルテシステムに更新し、稼働を開始した。

新システムへの更新に際して、以前から稼働してきたシステムではなく、別ベンダによる全く新しいシステムに更新した経緯について、同院 副理事長の原祐一氏はつぎのように話す。

IT System Innovation Review

福岡県・原土井病院

医療とITに精通したインテグレーションで、多岐にわたる要望に沿ったシステムの選定と精緻な工程管理によりスムーズな稼働を実現

特定医療法人 原土井病院は1967年に開院、福岡市東区で40年以上地域医療を担ってきた。IT化には積極的で、2004年には地元IT企業と病院情報システムを共同開発している。だが、本年の更新では、最新の「医療」に対応するために大手ITベンダへの移行を決定。院内の混乱を避けるために、医療とITに精通したインテグレーション企業に協力を依頼。今回のシステム更新とインテグレーションの概要を、同院の原祐一副理事長に聞いた。



原 祐一（はら・ゆういち）氏

1994年東京医科歯科大学卒。九州大学病院、大牟田労災病院、福岡県立遠賀病院を経て、01年日本医師会総合政策研究機構主任研究員。02年原土井病院勤務、04年九州大学大学院医療システム学教室助手、06年より原土井病院副理事長、08年ホームケアクリニック院長を兼務。04年より福岡市医師会理事、10年より福岡県医師会理事

「従来のシステムでは、いわゆる紙カルテの2号用紙部分に相当する診療行為の記録や、NST、褥瘡など、新たに医療に取り入れられた概念が反映できていなかったのです。そのため、院内の情報共有化と診療の効率化をさらに促進させる上でシステムの更新を検討していました。しかし、これまでシステム構築を依頼してきた地元のIT企業では、マンパワーの関係から、新たに500床を超える当院のような大規模な病院情報システムの構築が困難であることが分かり、別ベンダによる別システムの導入を図ることとしたのです。

しかし、全く新しいものにシステムを作り変えるとなると、大きな困難がいくつも伴うことが予想されます。ですので、今回のシステム構築をサポートしてくれる企業を探していたのですが、そこで懇意にしている他院から紹介されたのが大林組でした。

私自身、システムの構築と建物の建設は、その品質管理や工程管理などのマネジメント術について似ていると感じていました。ですから、建設業で全国的な知名度を持つ大林組にサポートを依頼することで、その

同社が培ったマネジメントノウハウを生かしてもらえないのではないかと考えたのです」

病院の要望に沿った仕様書作成と公平なシステム選定を実施

大林組は、1892年創業の大手総合建設会社であり、その名は広く知られている。同社は、建設業におけるノウハウを生かした情報エンジニアリング部門を有しており、企業や医療機関がシステム・ネットワークを導入する際のインテグレーションも行っている。医療施設や介護施設のシステム構築では、すでに40件以上の物件で同事業を完遂しており、本業で培ってきたマネジメント力と実績、専門知識に基づいた品質管理および工程管理、顧客の要望への対応力などで、高い評価を得ている。原氏は、大林組によるインテグレーションを受け入れる決断を下した理由をつぎのように話す。

「ソフトウェア会社のように、IT専門企業にインテグレーションを依頼すると、それぞれが懇意にしているシステムベンダがあるために、どうしてもバイアスが掛かってしまいがちです。しかし、大林組は多くのベンダと取引関係を持つので、特定のベンダ／システムに偏らず、公平なジャッジメントができると考えました。実際に、病院の各部署のヒアリングや仕様書の策定には綿密かつ丁寧に業務に取り組んでくれました。システム選定に関しても、ほとんどの電子カルテベンダと各ベンダのシステム内容に精通しているため、中立的な立場



所在地：福岡県福岡市東区青葉 6 丁目 40 番 8 号
URL : <http://www.haradoi-hospital.com/>

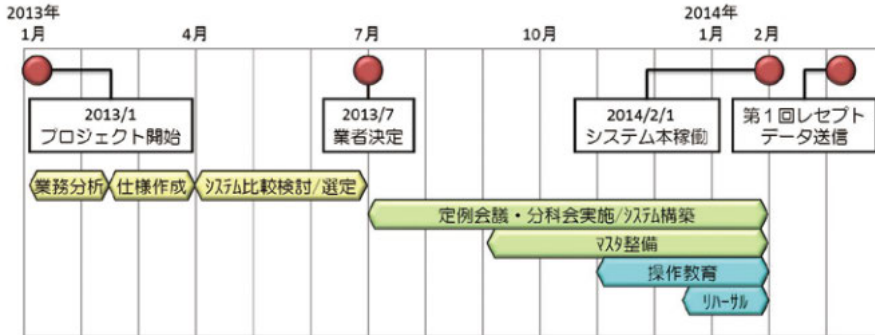
特定医療法人 原土井病院

1967 年に 33 床の病院としてスタートした原土井病院は、その後増床を重ね、現在は急性期、回復期リハビリ、医療／介護保険対応療養、緩和ケアや特殊疾患病棟など、多種多様な病棟を有する総ベッド数 556 床のケアミックス型病院である。地域の高齢者を中心とした医療ならびに介護サービスを提供しながら、地域内の病院・診療所と連携して「地域完結型医療」を推進している。職員数は非常勤医を含め約 750 名を数える

院外専門家として、病院とベンダ間の意見を調整

「から意見を述べてもらいました。当院としては、機能面を担保しつつ、コストパフォーマンスに優れたシステムを選定できたと感じています」

同院では、13 年 1 月にシステム更新に関するプロジェクトを開始。約半年後に業者

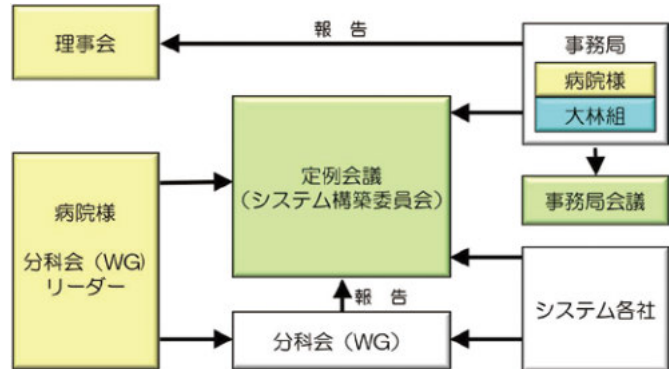


新病院情報システム稼働に関する原土井病院内組織図

病院スタッフと大林組で事務局を編成。システム構築に関する課題を精査し、病院とシステム各社の間を調整、その内容についてシステム構築委員会に諮って協議・決定し、理事会で承認する流れとなっている

原土井病院 病院情報システム稼働までのスケジュール表

大林組は、計画当初の段階から参画し、病院スタッフのヒアリングから仕様書作成、ベンダの選定、院内における定例会議の開催やシステムの操作教育、リハールまで、全ての工程を管理し、トータルでのシステム導入をサポートしている



大林組は、病院情報システム導入の実務を統括する事務局会議およびシステム構築委員会との間の意見を調整し、システム構築が円滑に進むようプロジェクト全体をサポート。また、システム稼働前の操作教育では、病院内の各部門で半月〜1ヵ月間におよぶ教育計画策定を行ったほか、一般的には2回程度しか行われない稼働前の全体リハールを病棟1回、外来で3回の計4回実施し、システム稼働後の混乱を最

へん感謝しています」

小林組は、病院情報システム導入の実務を統括する事務局会議およびシステム構築委員会との間の意見を調整し、システム構築が円滑に進むようプロジェクト全体をサポート。また、システム稼働前の操作教育では、病院内の各部門で半月〜1ヵ月間におよぶ教育計画策定を行ったほか、一般的には2回程度しか行われない稼働前の全体リハールを病棟1回、外来で3回の計4回実施し、システム稼働後の混乱を最

を選定し、以後は院内でのワーキンググループおよびシステム構築委員会による議論を経て、14年2月にシステムが本格稼働した。「システム稼働については、選定だけでなく、稼働に至るまでの工程管理も大林組が行ってくれたので、たいへん助かりました。おかげで、予定通り約1年でシステム稼働にこぎつけることができました。院内スタッフのみでは、このように順調には作業が進まなかったでしょう。例えば、システム運用を巡る病院スタッフ間の意見の調整を大林組が間に入っ

て積極的に取り持ってくれたので、システムに対する大きな不満を残すことなく、システム稼働にこぎつけることができ、たいへん感謝しています」

小林組は、病院情報システム導入の実務を統括する事務局会議およびシステム構築委員会との間の意見を調整し、システム構築が円滑に進むようプロジェクト全体をサポート。また、システム稼働前の操作教育では、病院内の各部門で半月〜1ヵ月間におよぶ教育計画策定を行ったほか、一般的には2回程度しか行われない稼働前の全体リハールを病棟1回、外来で3回の計4回実施し、システム稼働後の混乱を最

小限に抑える取り組みを実施した。さらに、突発的に発生したサーバ室の電気関連設備の増強工事への迅速な対応など、手厚いサポートもあり、稼働後は大きなトラブルもなく、1ヵ月後には電子カルテの操作に関する問い合わせ等はほとんどなくなり、システムも順調に稼働しているという。

原氏は、病院情報システム導入について、外部からのインテグレーションを受け入れたことについて、満足していると話す。「システム選定から工程管理と品質管理、各種システムベンダ担当者との交渉や、院内スタッフ間の調整まで、病院情報システム稼働に至るまでのあらゆることに責任を持って取り組んでもらい、そしてスケジュール通りに、大きなトラブルもなく順調に稼働できたことについて、大林組を高く評価しています。」

他の医療機関で、電子カルテ導入を検討している施設であれば、このようなインテグレーションを受け入れることを強くお勧めしますね」

大林組 情報エンジニアリング部

株式会社大林組は、1892（明治25）年創業の日本の大手総合建設会社。技術力においても国内トップクラスの企業である。同社では、建設業で得たノウハウを生かし、病院情報システム導入をトータルでサポートするICTサービスを展開。2013年10月までに医療関係で40件以上のICT関連工事を受注、実施している

所在地：東京都港区港南2丁目15番2号
電話番号：03-5769-1803
URL : <http://www.obayashi.co.jp/>